

第 91 回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成 27 年 7 月～ 9 月 期

平成27年7月～9月期は、中国経済の減速などを背景に輸出関連企業を中心に企業業績が悪化傾向にある中で、訪日外国人による消費効果が寄与し国内消費は堅調に推移した。日銀短観の9月調査における業況判断DIは、大企業・製造業において悪化傾向となったが、一方で大企業・非製造業は改善傾向が示された。

このような環境下において、トラック運送業界の7月～9月期は、軽油価格の下落が企業業績に好影響を与えたことにより、営業利益の改善効果がみられた。このため、景況感の判断指標は▲19.4となり、前回（▲34.6）から改善した。しかし、ドライバー不足は引き続き深刻な状況にあるため、軽油価格が下落しても、営業利益の改善効果が得られない事業者も高い比率で存在する。

来期の景況感の判断指標は、今回より僅かに悪化の▲22.2が見込まれている。

平成 27 年 11 月 24 日

公益社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成27年7月～9月期）の状況

① 概況

平成27年7月～9月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は17.4%（前回15.4%）、「悪化」とした事業者は33.5%（前回43.2%）で、判断指標は▲19.4となり、前回（▲34.6）から15.2ポイントの改善となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が32.1%、「増加」とする事業者が22.7%で、判断指標は▲13.6となり、前回（▲23.1）から9.5ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が32.1%、「増加」とする事業者が26.3%で、判断指標は▲11.0となり、前回（▲21.9）から10.9ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が28.0%、「増加」とする事業者が29.9%で、判断指標は▲1.0となり、前回（▲17.0）から16.0ポイント改善した。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が24.1%、「増加」とする事業者が24.1%で、判断指標は▲10.3となり、前回（▲7.7）より2.6ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が24.1%、「増加」とする事業者が17.2%で、判断指標は▲17.2となり、前回（▲5.1）よりも12.1ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が24.1%、「増加」とする事業者が17.2%で、判断指標は▲17.2となり、前回（▲7.7）よりも9.5ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が33.8%、「増加」とする事業者が14.5%で、判断指標は▲22.6となり、前回（▲30.0）から7.4ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が30.6%、「増加」とする事業者が25.8%で、判断指標は▲8.1となり、前回（▲11.7）から3.6ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が24.2%、「増加」とする事業者が38.7%で、判断指標は16.1となり、前回（▲10.0）から26.1ポイント改善した。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は、一般貨物は5.0（前回0.3）と4.7ポイント改善、宅配貨物は10.3（前回7.7）と2.6ポイント改善、宅配以外の特積貨物は27.4（前回20.0）から7.4ポイント改善となっている。

⑤ 実働率等

実働率は▲14.5（前回▲21.4）と6.9ポイント改善、実車率は▲10.9（前回▲20.5）となり、9.6ポイント改善となった。

雇用状況（労働力の過不足）は73.4（前回56.3）と17.1ポイント上昇し、不足感が強くなった。採用状況は▲5.1（前回▲1.0）で指標は4.1ポイント減少し、所定外労働時間は▲10.6（前回▲16.6）と6.0ポイント増加している。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲2.0（前回▲12.7）で10.7ポイント増加となった。経常損益は5.4（前回▲9.8）となり、指標は15.2ポイント改善となった。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者は0.0（前回▲13.5）と13.5ポイント改善、中規模事業者は▲13.2（前回▲33.7）となり、20.5ポイント改善、小規模事業者は▲35.7（前回▲44.5）と8.8ポイント改善となっている。

一般貨物における主な取扱い品目別については、消費関連貨物は▲7.7（前回▲23.2）と15.5ポイント改善、建設関連貨物は▲38.3（前回▲37.0）と1.3ポイント悪化、機械関連貨物は2.7（前回▲31.1）と33.8ポイント改善しており、その他貨物は▲29.6（前回▲45.2）と15.6ポイント改善している。

一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、北海道、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、中国、四国、において水準を上げている。

2. 今後（平成27年10月～12月期）の見通し

① 概況

平成27年10月～12月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲22.2で、今回から2.8ポイント下げる見込み。

② 一般貨物

一般貨物について、輸送数量、営業収入は横ばい、営業利益はやや悪化の見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物について、輸送数量及び営業利益は横ばい、営業収入は僅かに悪化の見込みである。

宅配以外の特積貨物について、輸送数量は横ばい、営業収入及び営業利益は悪化の見込みである。

④ 運賃・料金水準

一般貨物、宅配貨物はやや低下の見込み、宅配以外の特積貨物は低下の見込みである。

⑤ 実働率等

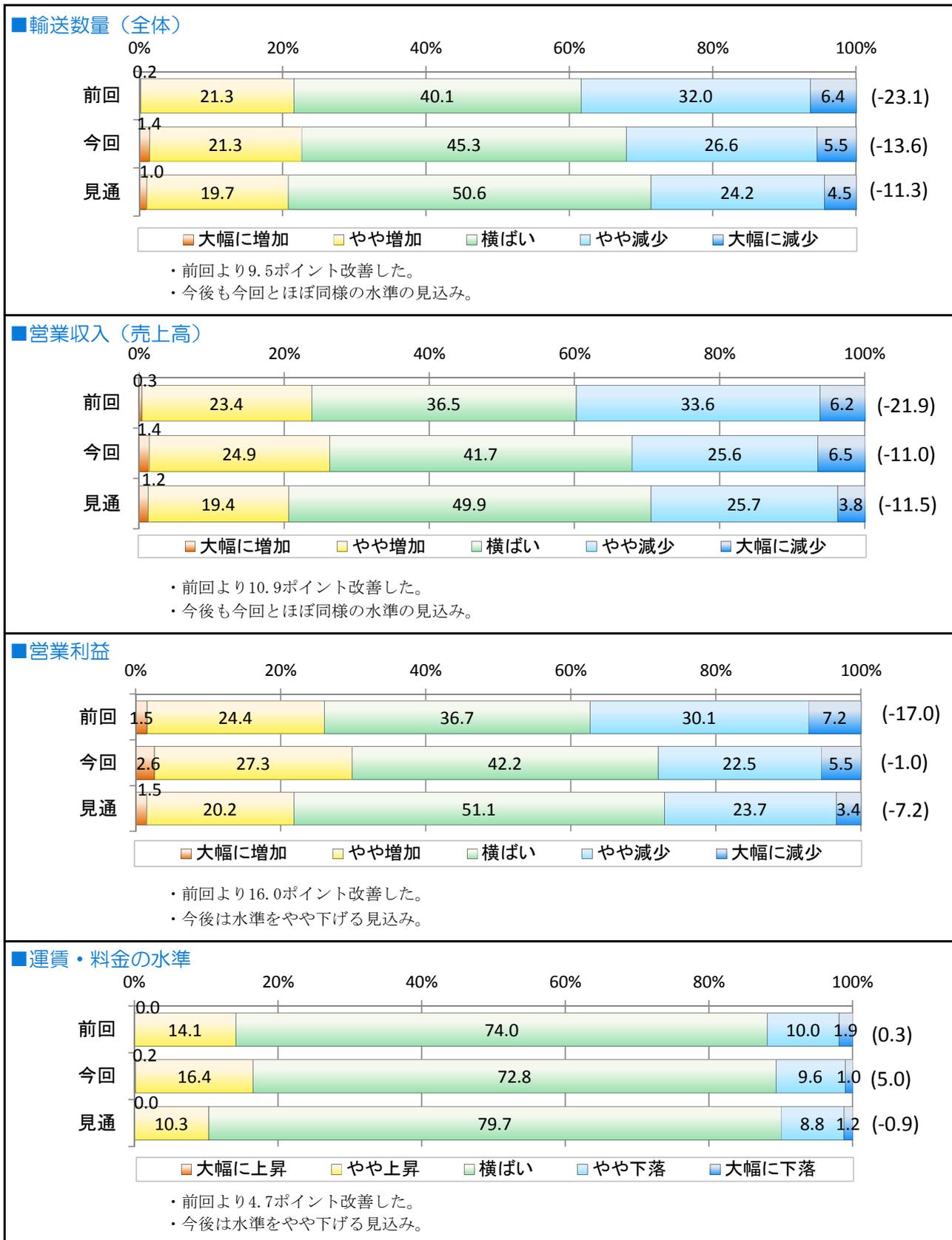
実働率及び実車率は僅かに改善の見込みである。雇用状況（労働力の過不足）は指標の水準をやや上げ、不足感が強まる見込みである。採用状況は、水準を僅かに下げ、減少の見込みである。所定外労働時間はやや水準を上げる見込みである。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は水準を僅かに下げ、経常損益は指標の水準を下げる見込みである。

⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者においては悪化、中期規模事業者においてはやや悪化、小規模事業者においては僅かに改善の見込みである。

一般貨物における主な取扱い品目別では、消費関連貨物はやや水準を下げ、機械関連貨物は僅かに水準を下げる見込みである。建設関連貨物、その他貨物は横ばいの見込みである。一般貨物における地域別では、中部、九州においては水準を上げ、北海道、東北、北陸信越、中国、四国においては水準が低下する見込みである。

3. 一般貨物の概況



【調査の概要】

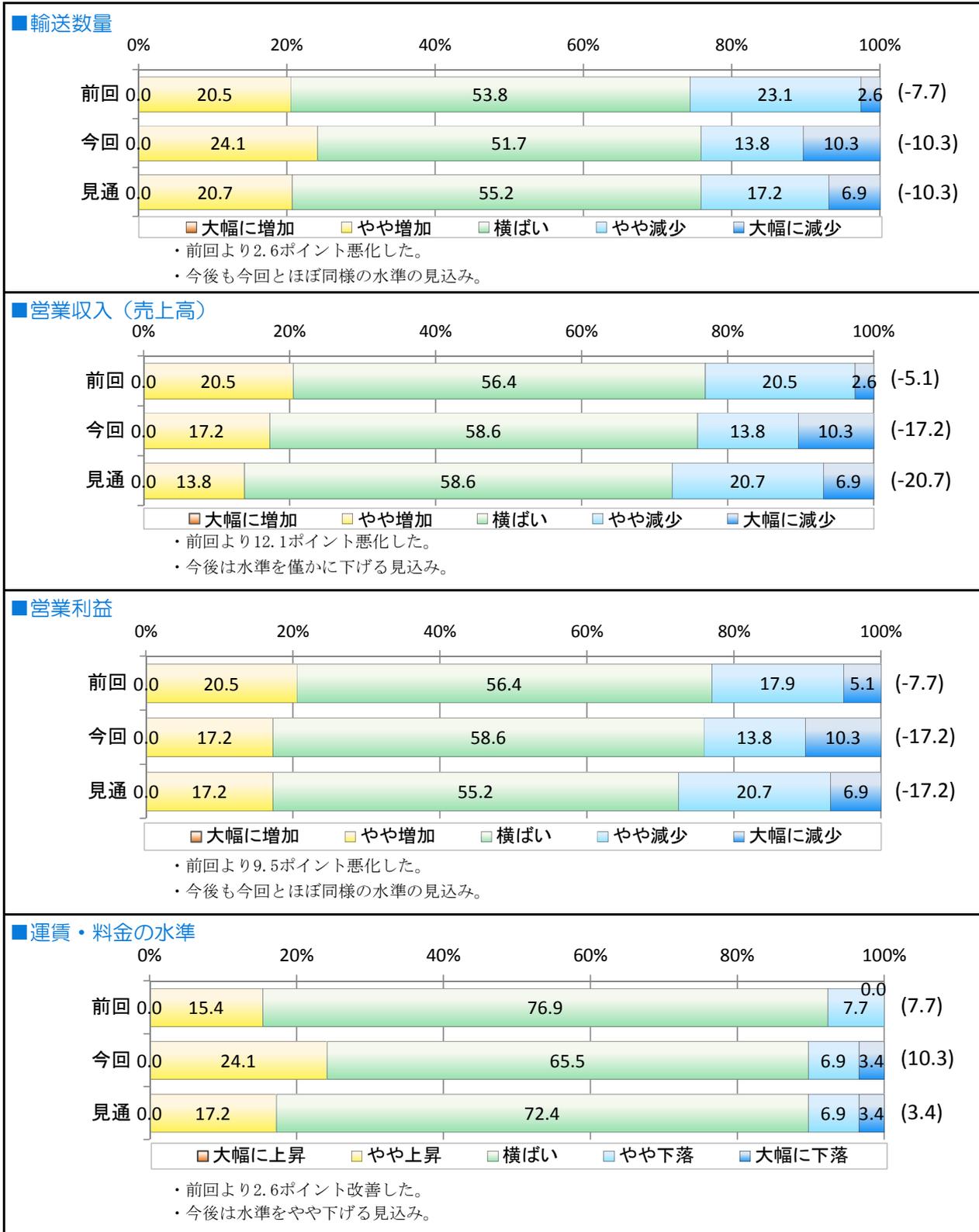
平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第91回調査は、平成27年10月1日に、モニターに対して調査開始。平成27年11月2日回収分までを集計。

| 特積 | 一般 | 回答事業者全体 |
|----|-----|---------|
| 72 | 583 | 613 |

※一部回答事業者の重複あり

4. 特積貨物の概況

① 宅配貨物



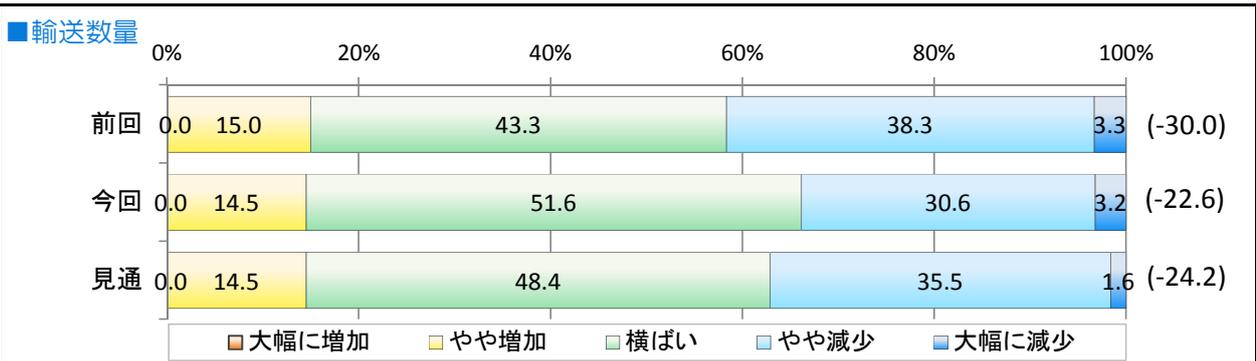
(注1) 各グラフの上段は前回(H27.4月～6月期)の状況、中段は今回(H27.7月～9月期)の状況、下段は今後(H27.10月～12月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

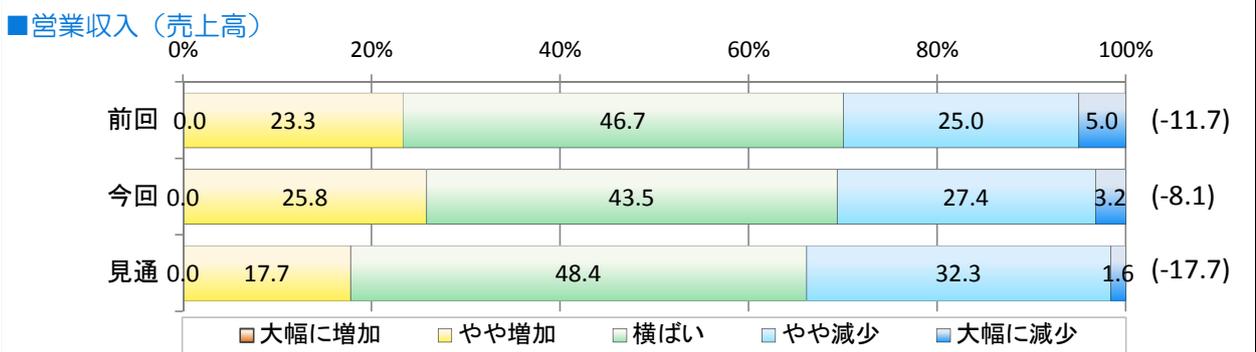
(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A(設問Aの回答者数) = a1+a2+a3+a4+a5(設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

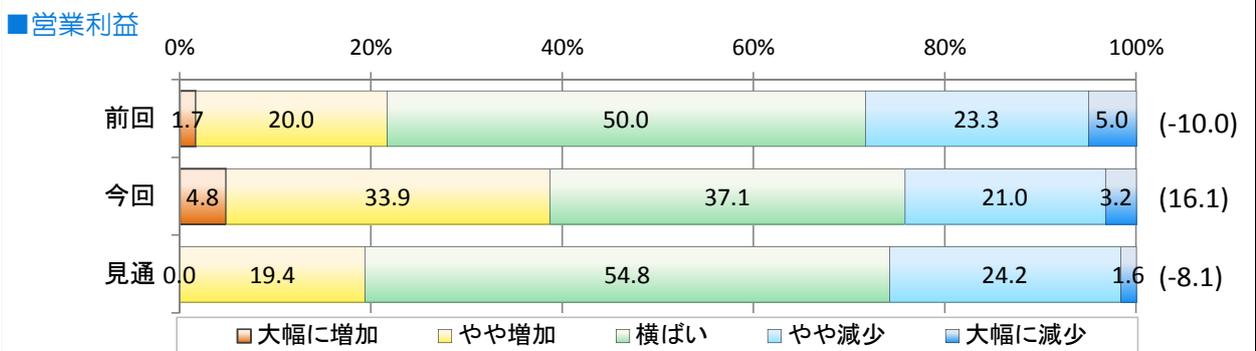
② 宅配以外の特積貨物



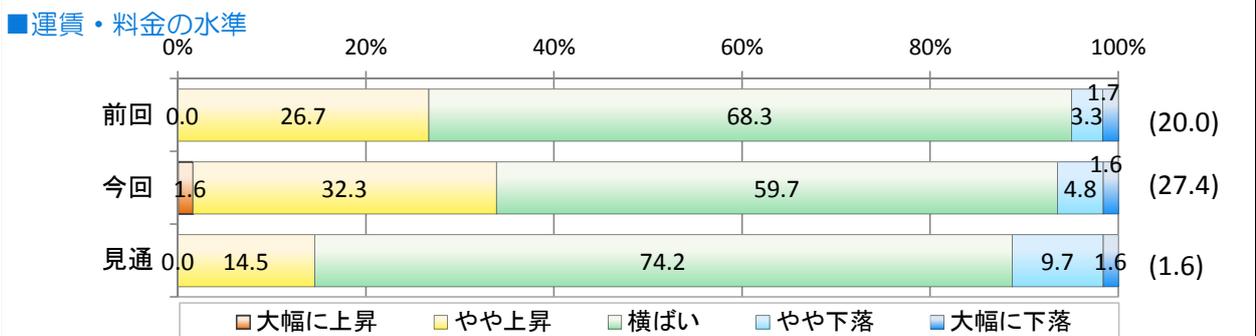
- ・前回より7.4ポイント改善した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。



- ・前回より3.6ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

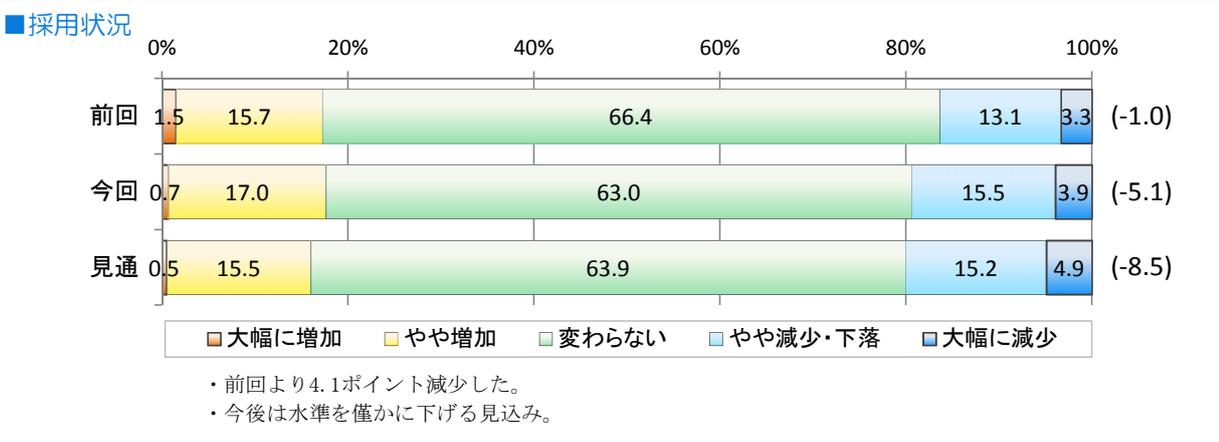
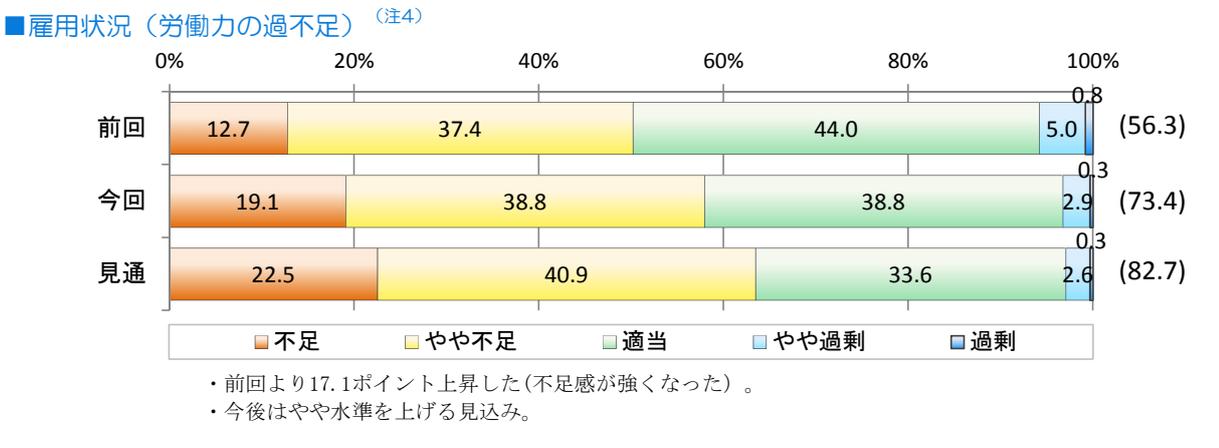
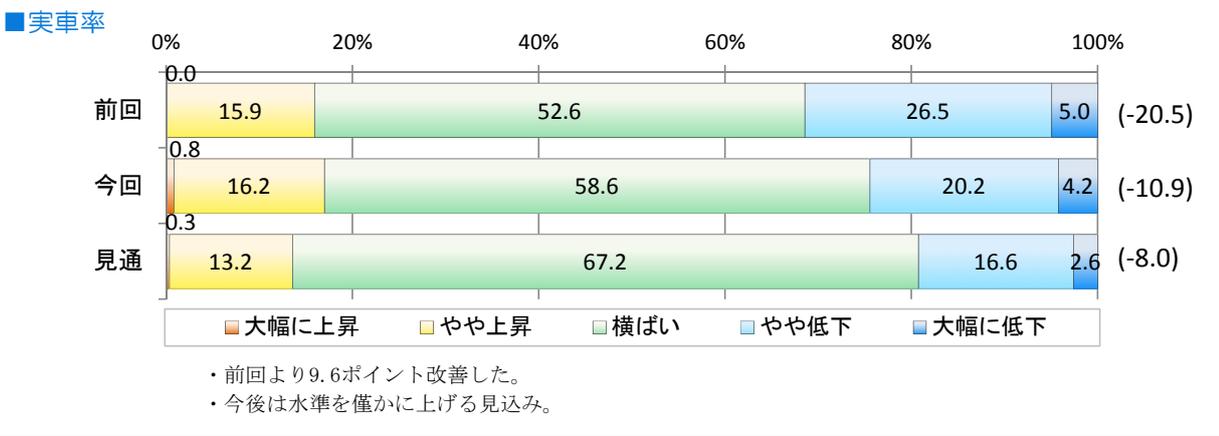
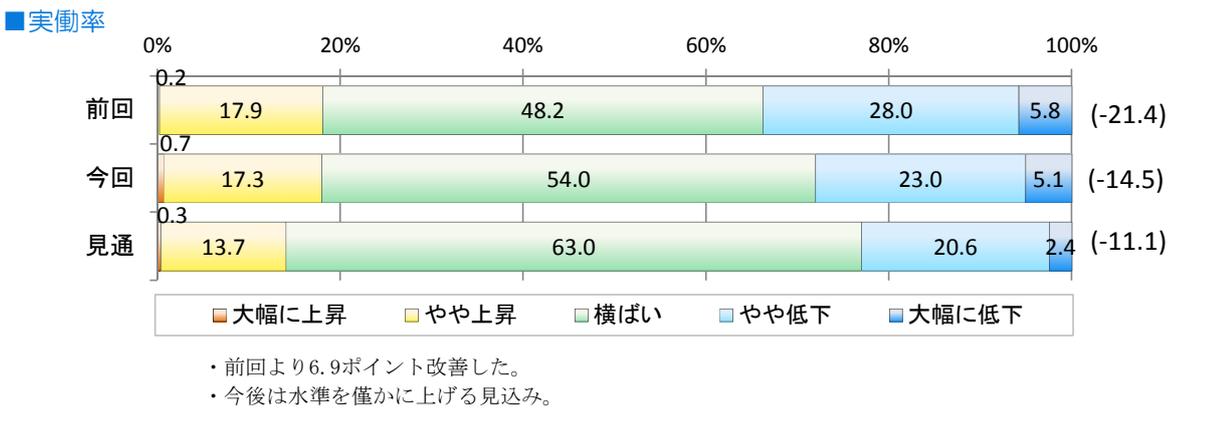


- ・前回より26.1ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。



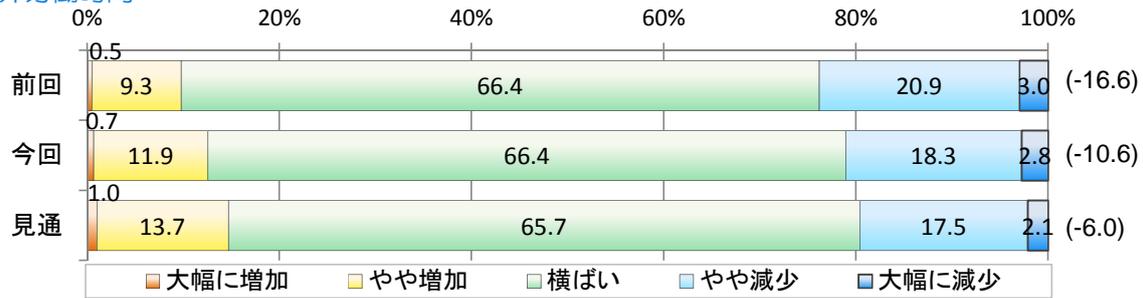
- ・前回より7.4ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

5. 共通の概況



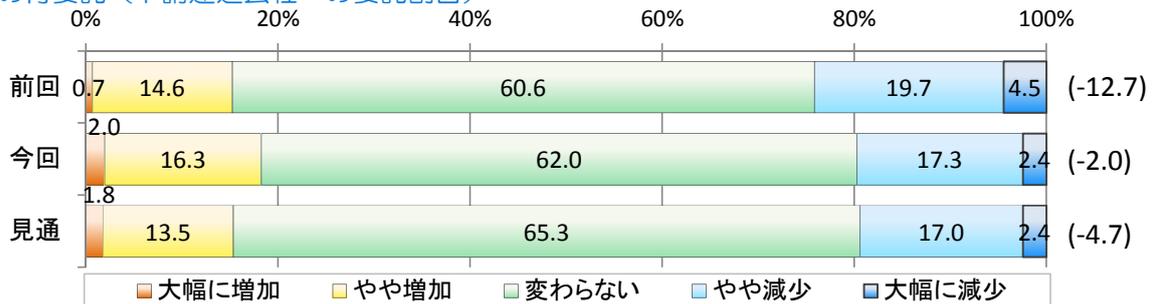
(注4) 雇用状況については、上段は前回(H27.4月～6月期)の状況、中段は今回(H27.7月～9月期)の状況、下段は今後(H27.10月～12月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を質問している。

■ 所定外労働時間



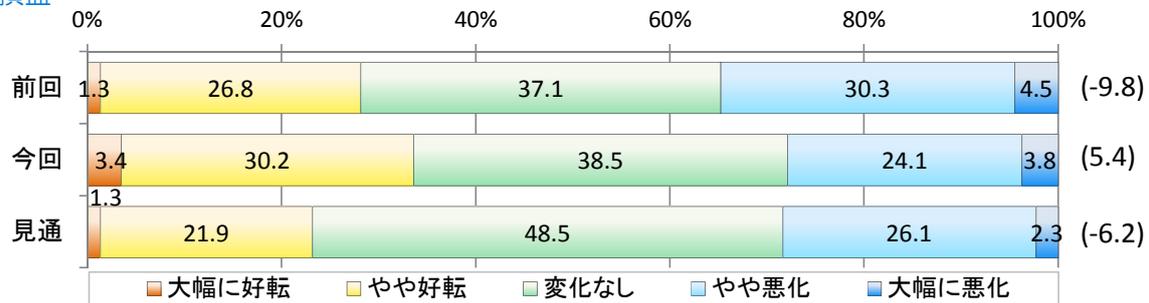
- ・ 前回より6.0ポイント増加した。
- ・ 今後はやや水準を上げる見込み。

■ 貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



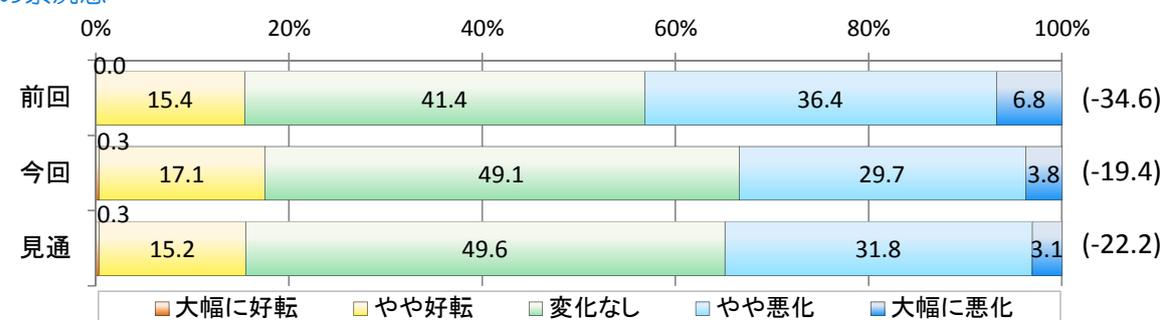
- ・ 前回より10.7ポイント増加した。
- ・ 今後は水準を僅かに下げる見込み。

■ 経常損益



- ・ 前回より15.2ポイント改善した。
- ・ 今後は水準を下げる見込み。

■ 業界の景況感



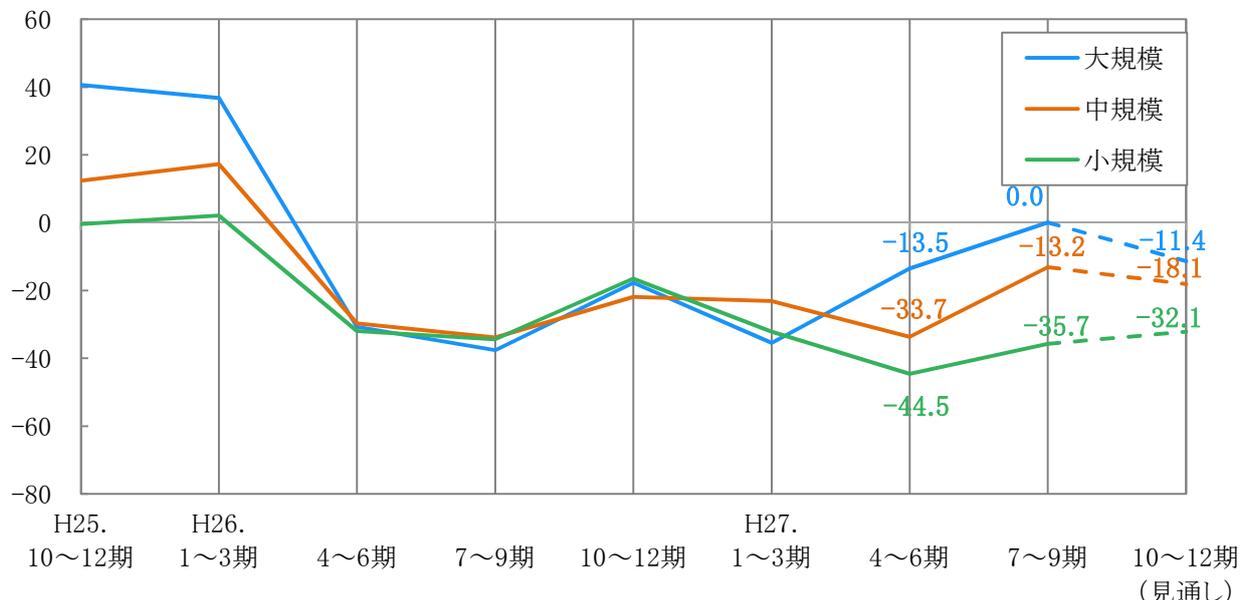
- ・ 前回より15.2ポイント改善した。
- ・ 今後は水準を僅かに下げる見込み。

6. 事業者特性別の特徴

① 規模 (注5)

- ・事業規模別の景況感は前回と比べ、大規模、中規模事業者は改善し、小規模事業者はやや改善している。
- ・今後は大規模事業者は悪化、中規模事業者はやや悪化、小規模事業者は僅かに改善の見込みである。

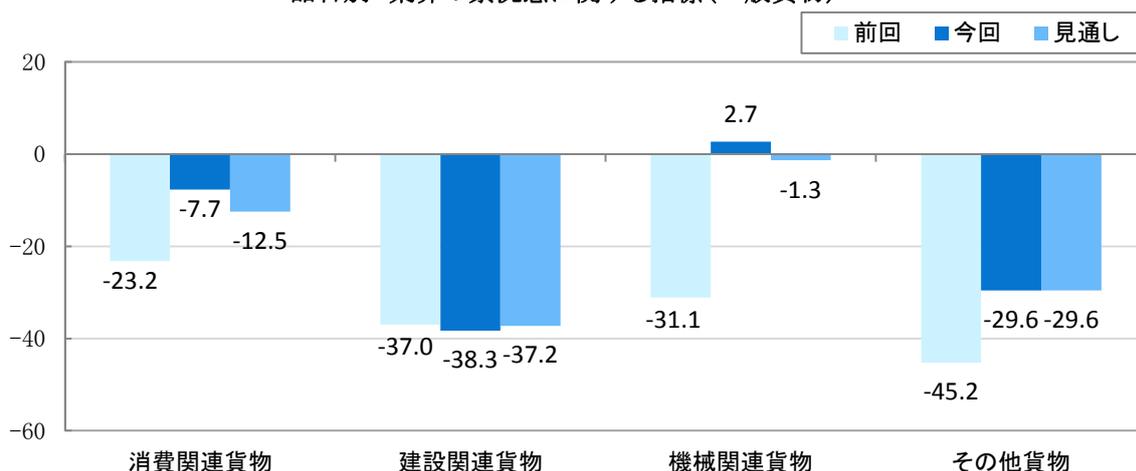
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移 (H25.10～12期より)



② 品目 (注6)

- ・「消費関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後はやや下がる見込みである。
- ・「建設関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感はほぼ横ばいであり、今後もほぼ横ばいの見込みである。
- ・「機械関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後は僅かに下がる見込みである。
- ・「その他貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後はほぼ横ばいの見込みである。

品目別 業界の景況感に関する指標 (一般貨物)



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

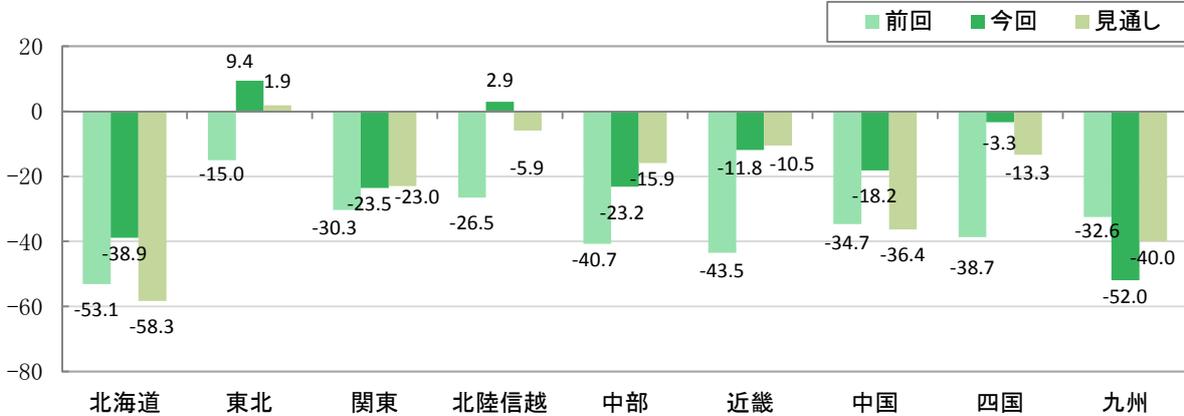
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

③ 地域 (注7)

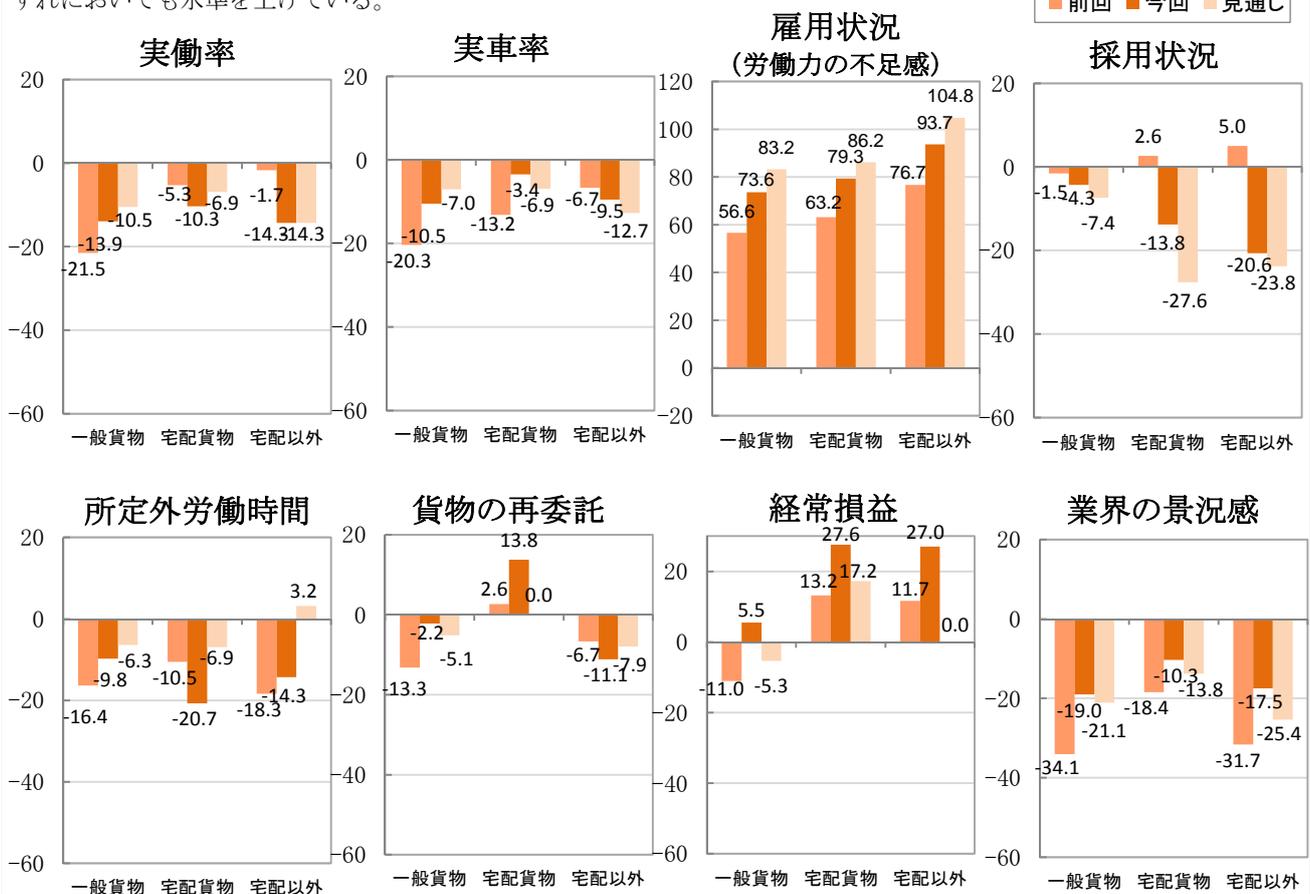
- ・一般貨物における地域別の景況感は、九州において水準を下げている。他方、北海道、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、中国、四国においては水準が上昇している。
- ・今後は中部、九州においては水準を上げ、北海道、東北、北陸信越、中国、四国においては低下する見込みである。

地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



④ 事業形態別 (注8)

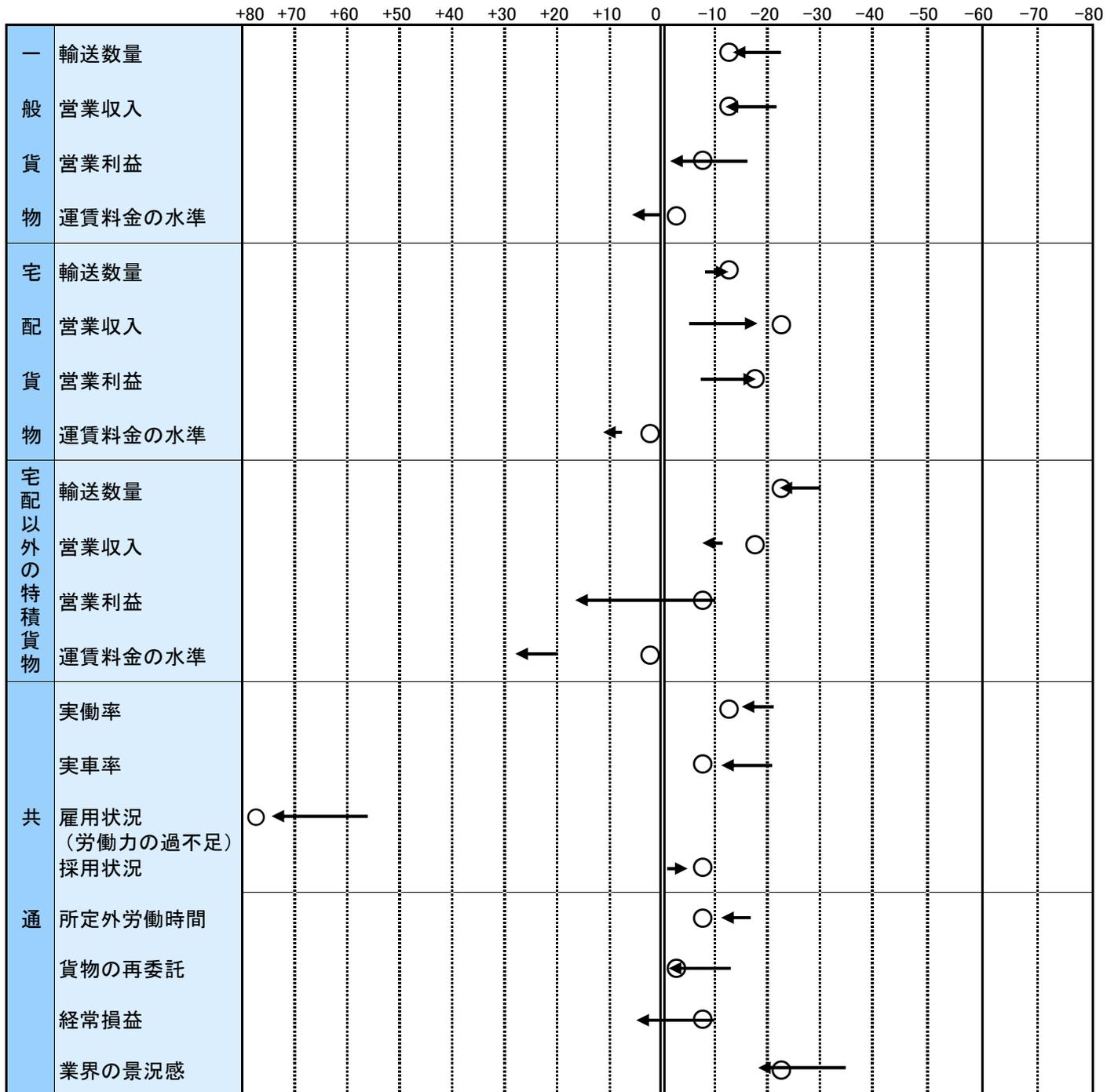
- ・事業形態別の景況感は、「一般貨物」「宅配以外」において水準を上げており、「宅配貨物」においては水準をやや上げている。また変化が顕著であった項目として、実働率については、「宅配貨物」「宅配以外」で水準を下げている。実車率については、「一般貨物」「宅配貨物」では水準を上げている。雇用状況は、「一般貨物」「宅配貨物」「宅配以外」いずれにおいても不足感が強くなっている。経常損益は、「一般貨物」「宅配貨物」「宅配以外」のいずれにおいても水準を上げている。



(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

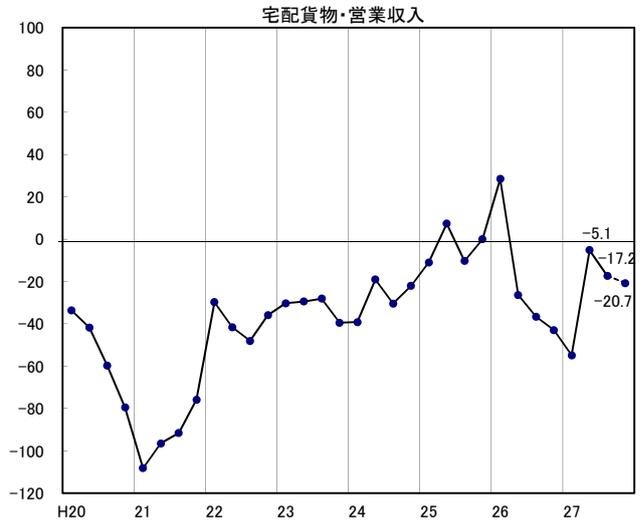
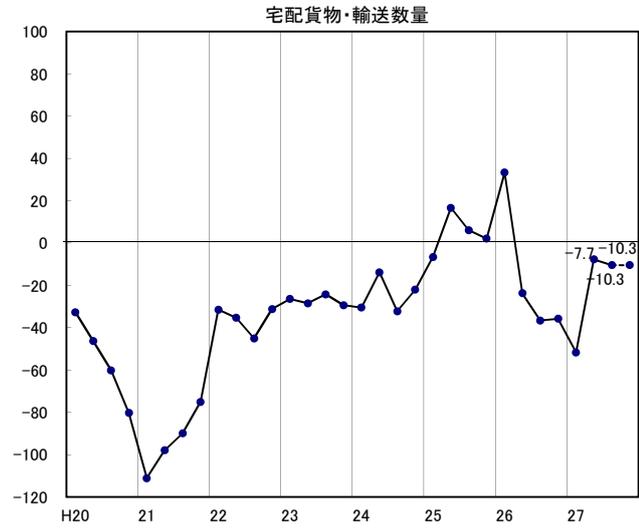
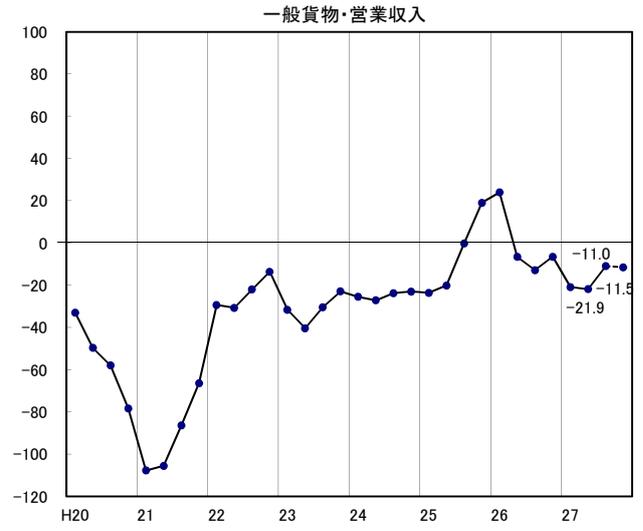
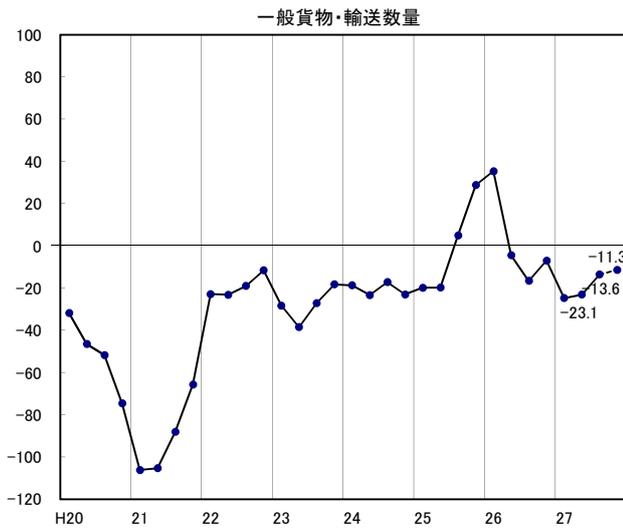
7. 業況判断指標の前回調査（平成27年4月～6月期）からの変化



凡例
 矢元：4-6月期の実績
 矢先：7-9月期の実績
 白丸：10-12月期の見通

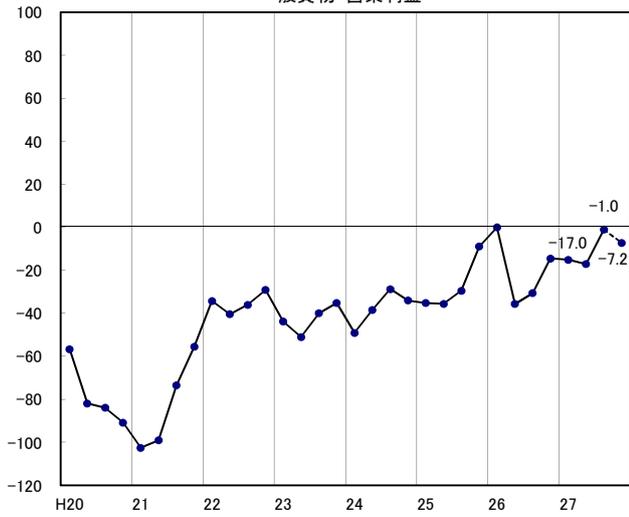
8. 業況判断指標の推移

平成20年～平成27年第4四半期見通し

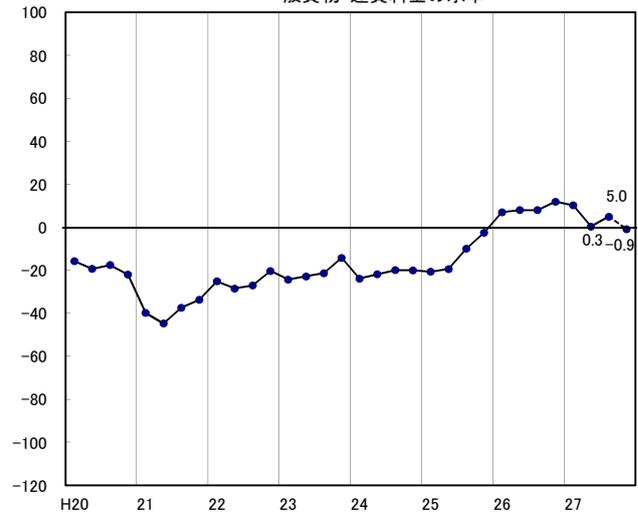


平成20年～平成27年第4四半期見通し

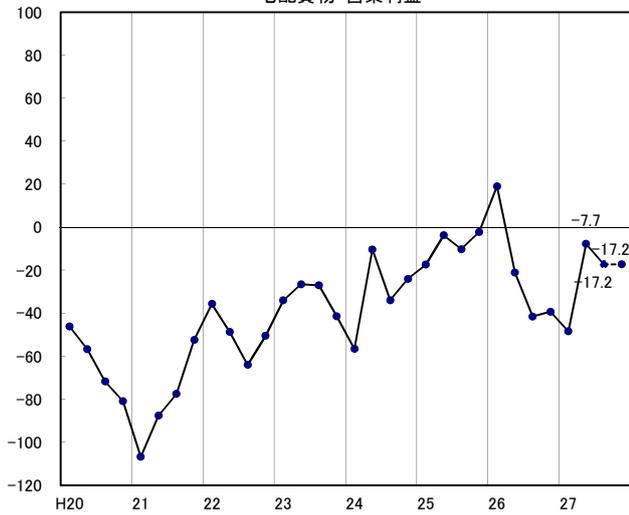
一般貨物・営業利益



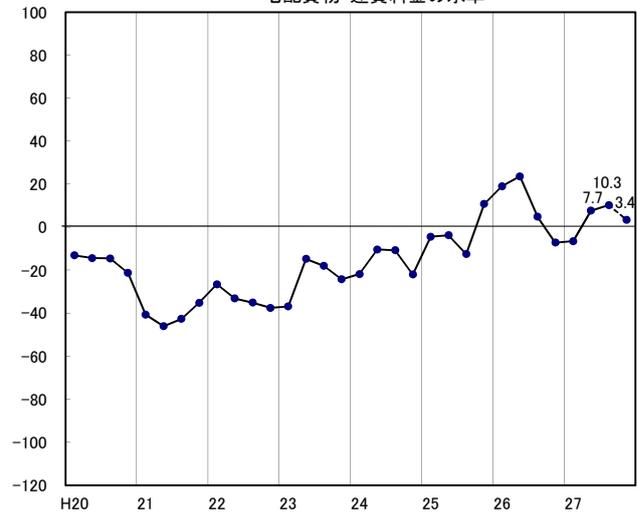
一般貨物・運賃料金の水準



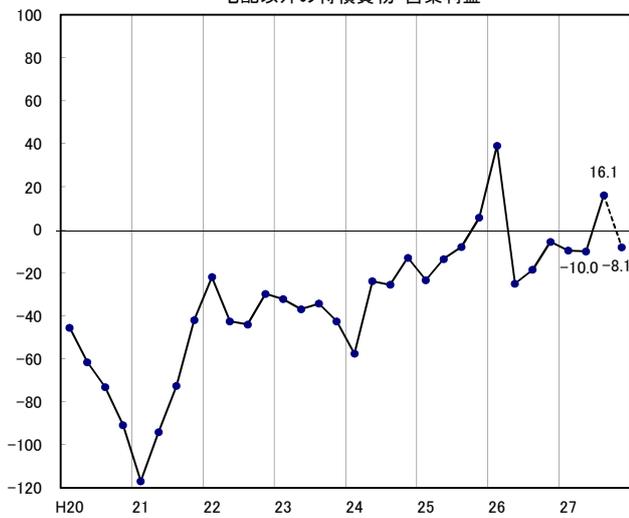
宅配貨物・営業利益



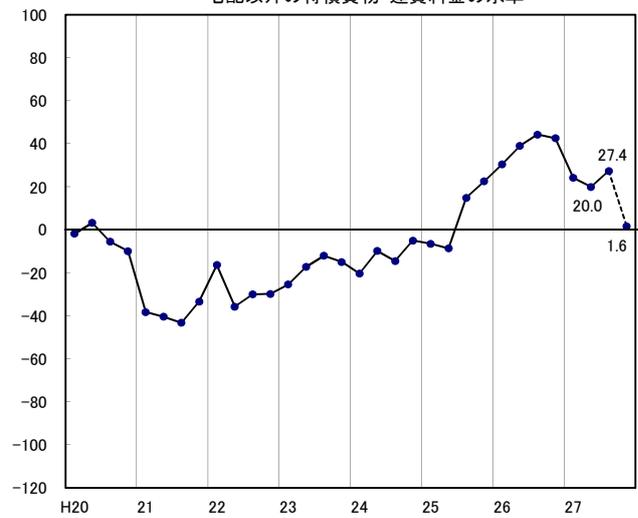
宅配貨物・運賃料金の水準



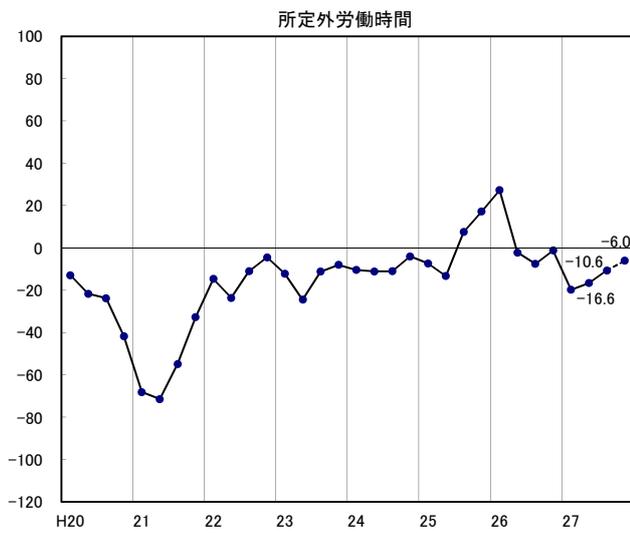
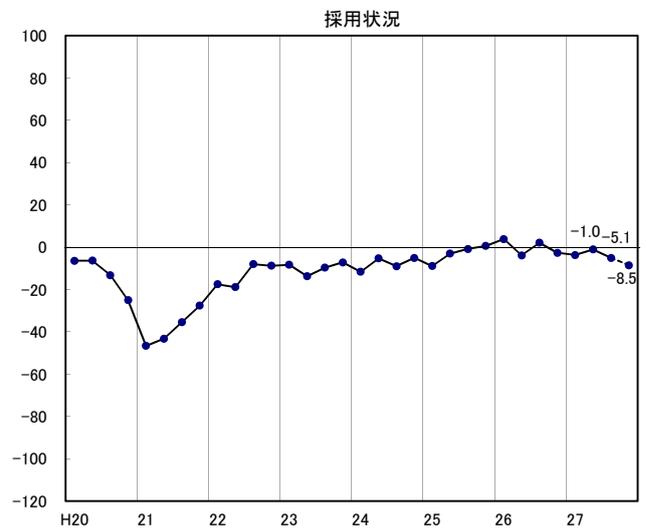
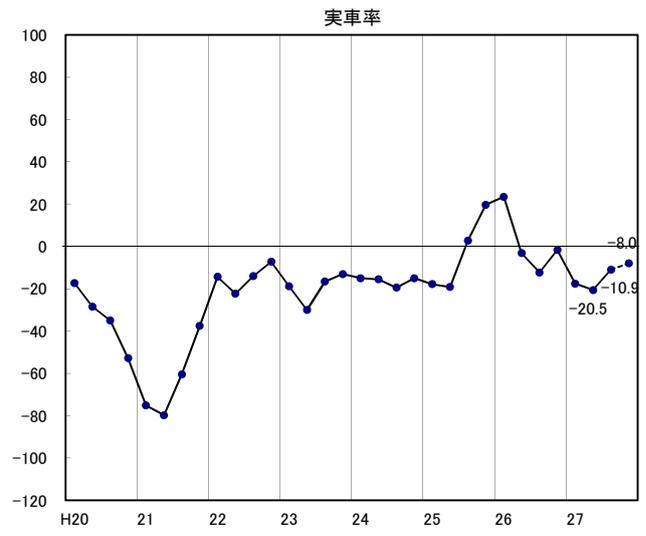
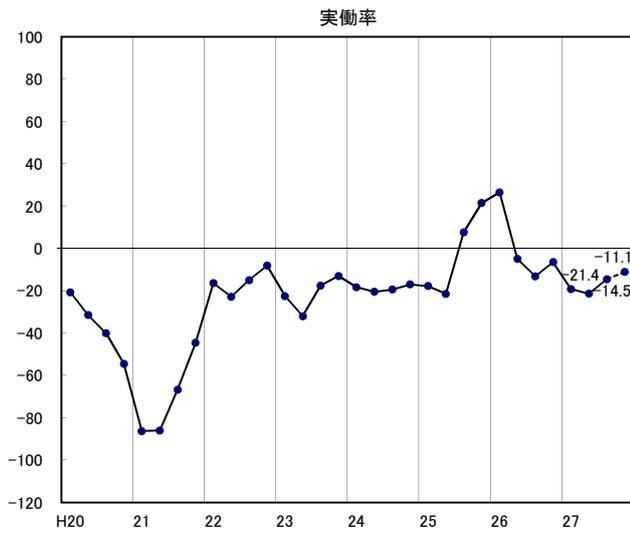
宅配以外の特種貨物・営業利益



宅配以外の特種貨物・運賃料金の水準

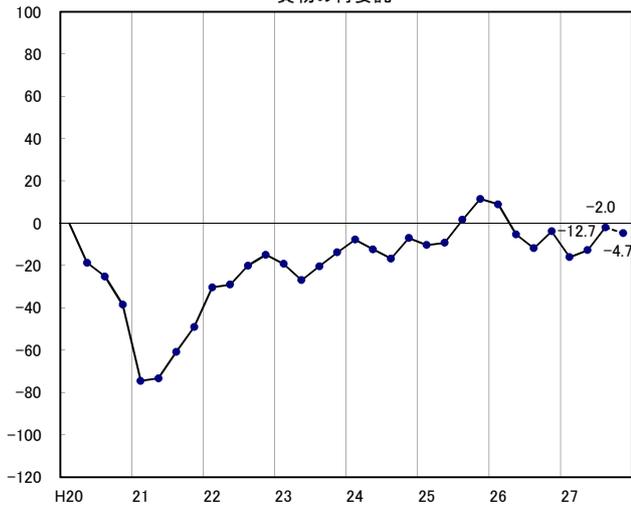


平成20年～平成27年第4四半期見通し

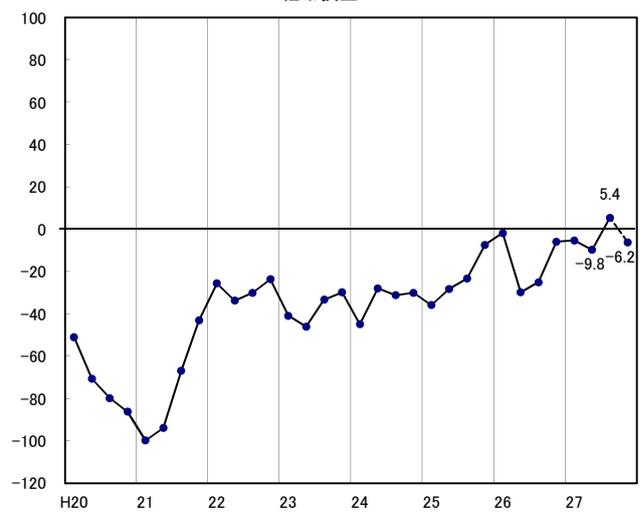


平成20年～平成27年第4四半期見通し

貨物の再委託



経常損益



業界の景況感

